宗教法人大蔵寺解散、及び寺終いについて。

宗教法人大蔵寺は、地元慣習や立場が有る者、名士などによって直接的な運営妨害や地元地域との紛争を起こされたことに加えて、旧大宇陀町（現宇陀市）によって寺院の土地が接収され、境内を分断する公道が設定されてしまったことにより、大蔵寺は笊のような防犯体制を強要されてしまうなど、寺院としての根幹を揺るがす様々な問題が未だに解決できない状況となり、この様な事から運営費も賄えない事態に陥り、大蔵寺所有文化財を売却して運営を維持して参りましたが、根本的な問題解決が難しいことから、今後の法人継続が不可能であると大蔵寺役員会で判断し宗教法人解散、寺終いを決定致しました。

しかしながら多くの地域民は、大蔵寺と自治会の紛争の事実を知らされることも無く、耳を塞がれていた状態であった事から、近年の自治会と大蔵寺の問題の事実を把握したいと、個人個人からの問い合わせや、この事実の公開の要望が大蔵寺に多く寄せられ、おかげさまで大蔵寺が被ってきた悪評やデマの流布、運営の難航は一部の有力者の横暴によって引き起こされた災禍であったことを、ご理解いただける状況となって参りました。

中には、事実を知りながらも、恐ろしくて口にすることが出来なかった方や、口を塞がれ、脅しを受けていた方もおられた事も明らかになってきており、我々は宗教法人解散を決定したと言えども、それが実行されるまでの間は、この地元地域の悪しき慣習や有力者の横暴に対して抵抗をしていく事を決心しており、この姿勢もまた多くの地元地域民から、影ながらの応援を得られるようになって参りました。

また、この様なことから、多くの方々からの要望により当法人ホームページに、極一部ではありますが現在までの一連の出来事を掲載してからは、大蔵寺の法人解散、財産処分などの件について地元内外から大蔵寺存続の要望を口頭のみならず、書面でそのお気持ちを頂戴することが多くなり、その内容は全て大蔵寺の歴史的価値と文化財、文化的価値、そして大蔵寺独自に伝えられてきた伝法が失われることの悲しみの声。そして法人解散の事情をご理解下さった上でのご意見や、地元以外の方々からも事実を知らずに大蔵寺を非難してしまったことのお詫び、今後の大蔵寺進退について様々なご提案や、地元民からは一部の有力者に対して物言えぬ悲しみと後悔の苦悩があった事の訴えが寄せられて参りました。

我々、大蔵寺役員一同や関係者は、寄せられた全ての訴えを共有し、書面で頂戴致しました事柄も全て、目を通しております。

今までの大蔵寺の環境では思いも寄りませんでしたが、大蔵寺を愛し、心の中で心配して下さっていた方々がおられた事、悪しき地域慣習を正して欲しいとの要望、自分たちに何が出来るのかと自問自答する方々が大勢存在していた事に驚きました。

また、このような有り難い訴えの中に、ひときわ我々の心を揺さぶった訴えは、この様に弱体化をしてしまった大蔵寺に対して衆生救済のリーダーとして立ち上がっていただきたいとの旨が記された手紙でした。

昨今の仏教寺院を取り巻く環境、特に観光行楽や、それに関係した利権にまみれた地域事情がまかり通っており、観光行楽こそが寺院の本分であるかの如く在り方を強要され続けてきた中で、衆生救済のリーダーとして大蔵寺の復興を望む声が上がるとは思いも寄りませんでした。

そこで、大蔵寺役員会において法人解散、寺終い、財産処分の決定を「再考の余地有り」とし、法人解散を撤回するに至るまでの努力を行って経過の観察をする事と致しました。

完全に法人解散を撤回するには、まだまだ雑多な事情や解決に至らない問題がありますが、法人解散を決定した当時と状況が変わりつつある現在、「再考の余地有り」として正式に各関係に公示する事となりました。

当ホームページ上では本誌面をもって宗教法人大蔵寺の公式見解とし、公示とさせていただきます。

しばらくは、「再考の余地有り」の立場を維持しつつも、「再考」「撤回」に至るまでの努力を致します。

今まで過去数十年、行う事が出来ず埋もれてしまっていた大蔵寺復興の計画を再度検討をし、その過程は当ホームページ上で公開することと致します。

壊滅的な状況となった大蔵寺ではありますが、これから復興の目的達成の為に共に歩んで下さる方々、信仰を共にし衆生救済の旗の下に集って下さる方がおられましたら、ご縁を頂戴致したく思います。

令和 5 年 3 月 21 日
宗教法人大蔵寺　責任役員会
　　総代会
代表役員　田邉宏史